

# 新製品・市場動向 ③

元フィルファクトリー社の創立メンバーが中心となり、二〇〇七年一月にCMOSイメージセンサの新会社CMOSIS、NV

CMOSIS NV  
社長兼CEO

## ヒー・メナンツ氏



五人で当社を設立した。  
——事業概要およびターゲットとする市場は、メナンツ、フィジビリティから回路設計、プロトタイプ、パッケージング、キャラクタリゼーションまで二箇野に期待している。すでに自社で行い、フランドル社を訪問したが、高い興味を持っていただき、手

たえが得られた。  
——サイプレスや他の競合との差別化は、メナンツ、開発した新規IPで実現する。X線イメージング分野では三×三cmといった大型のCMOSイメージングが必要とされ、ハインチウエハーから一個しか取れない場合もある。よってウエハー上の欠陥による画素不良で歩留まりの

メナンツ、設計だけの受注、カスタムデバイスおよび標準デバイスの販売の三分野で展開する。初年度は設計ツールやフランドル、サブコンなどの選定を進めており、複数社と話し合いを持っている。すでにビジネスが進行している案件もあり、第一号の設計案件はマシビジョン分野で〇八年末にプロトタイプが完成、〇九年半ばに出荷できる見通しだ。

設立後二年間は設計の受注のみで事業を運営するが、三年目からカスタムデバイス販売、四年目には標準デバイスの販売で売り上げが立って来る予定。売上高は、三年目に四五〇万ユーロ、五年目には九〇〇万ユーロまで拡大したい。

並行してマンパワーの強化も進める。〇八年第2四半期にはシニア設計エンジニアを二人採用することが決まっており、今後二年間で一六人(生産管理、セールス&マーケティング、オペレーション各二人、エンジニア三人、設計エンジニア七人)まで増員を進めていく予定だ。

——新会社で向を実現したいですか。  
メナンツ フィルファクトリーは大変成功した会社だったが、ベンチャーキャピタルから多くの資金を導入したため、結果として第一線から早く身を引かざるを得なかった。当社は創立者五人の持ち株比率を四一%にしている。会社運営を長く続けて、いいセンサーを作っていきたい。(聞き手・副編集長 津村明宏)

# 特別インタビュー

## 産業用CMOS センサー新会社を設立

年にフィルファクトリーを設立した。二五〇万ドルの資金を元に一人で立ち上げたが、〇四年には四〇人以上、二五〇〇万ドルまで成長し、〇四年八月に一億ドルでサイプレスセミコンダクターへ売却した。

その後、私は〇六年一月にIMECへ戻ったが、かつての顧客から引き継ぎイメージセンサに関する要望が寄せられ、技術改善のいいアイデアが浮かんだこともあって、かつての同僚

任を持つターンキービジネスを展開する。一案件でフィジビリティ、キヤラクタリゼーションまでに一年、量産までにさらに一年をかけるのが通例だ。

ターゲット市場は航空宇宙、理化学機器、X線イメージング、医療機器、ロボットや自動追尾といったマシビジョン、自動車、高フレームレート用途といった特殊分野に特化し、民生分野は手がけない。

——米日の目的は、メナンツ、日本市場での新規顧客の開拓。特にマシビジョン、医療機器分野

低下を招きやすく、商業ベースで安価にセンサーを供給するのが大変難しい。当社では、これを回避し、歩留まりを向上できる技術を複数出願しており、代表的なものとして2Dステッピング技術を保有している。またフィルファクトリーを向上する技術やピクセル間のクロストークを下げる技術を開発中で、裏面入射型センサーの改良にも役立つと考えている。高速化対応として、独自のカメラADC技術も開発中だ。

——ターゲット分野の市場規模について、メナンツ

ターゲット分野の市場規模について、メナンツ

## X線イメージング など特殊分野に特化

メナンツ、設計だけの受注、カスタムデバイスおよび標準デバイスの販売の三分野で展開する。初年度は設計ツールやフランドル、サブコンなどの選定を進めており、複数社と話し合いを持っている。すでにビジネスが進行している案件もあり、第一号の設計案件はマシビジョン分野で〇八年末にプロトタイプが完成、〇九年半ばに出荷できる見通しだ。

設立後二年間は設計の受注のみで事業を運営するが、三年目からカスタムデバイス販売、四年目には標準デバイスの販売で売り上げが立って来る予定。売上高は、三年目に四五〇万ユーロ、五年目には九〇〇万ユーロまで拡大したい。

並行してマンパワーの強化も進める。〇八年第2四半期にはシニア設計エンジニアを二人採用することが決まっており、今後二年間で一六人(生産管理、セールス&マーケティング、オペレーション各二人、エンジニア三人、設計エンジニア七人)まで増員を進めていく予定だ。

——新会社で向を実現したいですか。  
メナンツ フィルファク

トリは大変成功した会社だったが、ベンチャーキャピタルから多くの資金を導入したため、結果として第一線から早く身を引かざるを得なかった。当社は創立者五人の持ち株比率を四一%にしている。会社運営を長く続けて、いいセンサーを作っていきたい。(聞き手・副編集長 津村明宏)